

エゴマを奥出雲第三のブランドに！

まちの元気グループ紹介

われら

@おくいずもん

奥出雲エゴマの会

「エゴマ」は「コマ」ですか？
とよく聞かれますが、エゴマは「紫蘇科」の植物です。

名前が「コマ」と似ていますが異なる植物で、縄文時代より栽培



された古くて新しい植物で、近年健康志向の高まりから注目され認知度が高まっています。

奥出雲エゴマの会は平成19年に設立され、現在35人の会員(内田勇会長)です。

生産者である会員相互の交流や栽培技術の向上と遊休農地や転作地を有効活用し、生産の普及拡大を図る活動によって、エゴマを地域の特産品として奥出雲第三のブランドを目指され、今では栽培面積が約23haで島根県最大の生産地となっています。

奥出雲町に搾油機が導入されてエゴマ油を生産することができ、油の自給と商品化に取り組み町民の健康で豊かな高齢化社会の実現を目標にされています。

10月に開催されました米1グランプリ2014にエゴマの会として初めて「幣餅」を出店し、町内外の皆様にも奥出雲のエゴマをPRし2日間とも完売。奥出雲のエゴマの名声を高めるとともに会員相互の交流も深められました。

切り取り線

郵便はがき

6 9 0 8 7 9 0

579

料金受取人払郵便

松江中央局
承認

922

差出有効期間
平成27年10月
19日まで

奥出雲町横田 1037

奥出雲町議会
議会広報特別委員会 行



切り取り線

編集後記

早いもので今年も残すところひと月ほどもとなりました。今年最も日本が沸いたもののひとつに、銅牌選手の大躍進が挙げられます。世界ランキング5位、アジア選手初のファイナル出場は、同じ島根県民として誇らしい限りです。今季彼は、よくメンタルの強さを口にします。

「絶対できると、強い気持ちでプレーできたー」
コーチと共にメンタル強化に取り組んできた成果でしょう。今中央では、「地方創生」が叫ばれていますが、地方にいる我々が「してあげる」意識では創生は成し得ません。中央はサポートに過ぎず、具体策は持っています。地方にいる我々の自発的な力こそが原動力です。今の子どもたちの時代のためにも「絶対できると、強い気持ちで」人口減少問題に打ち勝ち、希望あるまちにしていきたいでしょう。議会ももっと強くあらねばと、思いを新たに頑張ります。

(内田雅人)



表紙の写真

米1グランプリ (横田運動公園)

秋の恒例行事となった米1(べいわん)グランプリ。米・米粉料理を来場者の投票によって競っています。今年のグランプリ料理は仁多米を使ったJA雲南チームの米粉パスタ。食は奥出雲の大きな魅力となっています。